

編 集 後 記

“松本歯学”も本号をもって第3巻にはいりました。掲載論文数は8篇を算え、第2巻、第1号と並んで最高ですし、内容も豊富です。だからといって編集幹事会は満足しているわけではなく、よりよい雑誌にするため努力を続けております。改善すべき点の1つは Summary の訂正です。英文抄録は短かいものですが、外国人に読んでもらうためのものですから、文法的にも正しくなければなりません。それには英国人ないし米国人にみて頂くのが一番よいわけです。ところが松本近辺では適当な人がなかなかみつからないのです。英米人であれば誰でもいいというわけではありませんし、ある程度の馴れが必要ですから短期滞在者でも困るのです。理想的なのは、著者と膝をつきあわせて、内容をよく理解してから訂正して頂くことです。そこまではないにしても何かよい解決策を考えなければなりません。

次に原稿がもっと殖えたらと思います。松本歯科大学の学会なのですから、各教室で1年に1篇ぐらいは書いて頂きたいのです。たしかにほかにもたくさんの学会があり、しかも専門の学会誌に発表した方が広く知られてよいこともあるでしょう。しかし本誌発展のために、論文の一部をこちらにまわしていただけたらと考える次第です。なお郵政省から学術刊行物としての認可を得ることもまだ宿題として残っております。

定期刊行の雑誌といっても週刊、月刊など、あるいは文芸誌、大衆誌、商業誌などいろいろあるので一概には言えませんが、本誌のごとき年2回発行の学術誌は編集しやすいものにはいるでしょう。しかし、集った原稿を印刷所にまわし、著者校正の後、印刷・製本して出来あがりというわけではありません。著者の希望と印刷の技術とがうまく合わない折にどこで妥協してもらうかなどは大きな問題ですし、さらにかくれた苦労としては広告集めがあります。庶務の原田幹事が手際よくやって下さるので助かりますが、半頁の広告の残り半頁分がない時や裏白（偶数頁が1頁分ないこと）になってしまう時などこまかいことでいくつも問題が出て来るのです。そのほか目次の原稿を作ったり、学会抄録を入れたり、さらにはこうして編集後記を書いたりいろいろなことがあるのです。反面、完成した雑誌を手にした時の喜びは格別です。そのために頑張っているといってもよいでしょう。

第3巻、第2号の原稿締切りは本年10月末日となっております。編集の最大の心配は原稿が不足することであることを思い、心から投稿をお待ちする次第であります。 (S.E.)

松 本 歯 学 第 3 巻 第 1 号 (非売品)

1977年 6 月 25 日 印刷 1977年 6 月 30 日 発行

編集兼発行者 北 村 勝 衛

発 行 所 松本歯科大学学会
399-07 塩尻市広丘郷原1780 電話 02635-2-3100

印 刷 所 電算印刷株式会社
390 松本市筑摩 3 2 7 0 電話 0263-25-4329
